

1. 評価結果概要表

作成日 2007年10月25日

【評価実施概要】

事業所番号	1273600203
法人名	特定非営利活動法人秋桜
事業所名	グループホーム秋桜
所在地	千葉県印西市小林1608-2 (電話) 0476-97-5535

評価機関名	特定非営利活動法人コミュニティケア研究所		
所在地	千葉県千葉市中央区千葉港4-4千葉県労働者福祉センター5階		
訪問調査日	平成19年10月25日	評価確定日	12月10日

【情報提供票より】(19年10月9日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成13年8月1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	12 人	常勤5人, 非常勤7人, 常勤換算10人	

(2) 建物概要

建物構造	木造瓦葺造り
	2階建ての 1階 ~ 2階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	50,000 円	その他の経費(月額)	水光熱25,000 + 食48,000 + 実費	
敷金	有(300,000円)			
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無		
食材料費	朝食	350 円	昼食	600 円
	夕食	650 円	おやつ	円
	または1日当たり 円			

(4) 利用者の概要(10月9日現在)

利用者人数	9名	男性	2名	女性	7名
要介護1	0名	要介護2	2名		
要介護3	1名	要介護4	2名		
要介護5	4名	要支援2	0名		
年齢	平均 82歳	最低	59歳	最高	97歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	千葉新都市ラーバンクリニック もとの金城クリニック 住吉整形外科クリニック
---------	---------------------------------------

特定非営利活動法人コミュニティケア研究所

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

前庭方式の昔ながらの木造二階建て民家をグループホームとして活用している。内部は高齢者が住みやすいように改造され、既成建屋であるにもかかわらず、レイアウト等、使い勝手がよくなっている。家庭の雰囲気を最大限に生かす配慮がなされており、まさに家の中のそれぞれの居室という印象である。運営者を始め管理者・職員が一体となってケアに取り組んでおり、入居者優先の精神が理念・方針と共に生かされている。職員の細かな心遣いと動きが優れたホームである。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回評価では特に改善課題がなかった。しかし更に研鑽を重ね、日ごろの話し合いにおいて、入居者の体調の変化に合わせた適切な介護が行えるよう努めている。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	自己評価については各項ともホームのありのままを記載するように努めた。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)
	概ね2ヵ月に1回開催している。内容は、行政の方針説明やホームの会計・事業計画報告など。市職員より小規模多機能についての説明も行われた。その意向を帯し、ホームの独自色も尊重しつつ、意見交換を行っている。また地域の民生委員・理事会・老人クラブ委員等幅広い意見を聴取し、運営に生かしている。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)
	面会時や家族会での話し合いはもちろん、こまめに電話連絡を行うとともに、ホーム便りには写真等も掲載して家族の不安解消に努めている。また、防災面については誘導灯の設置や煙感知器を取り付け、安全に配慮している。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	地域の高齢者介護に関しては中心的存在であり、交流もきわめて頻繁に行われている。民生委員や高齢者クラブとの交流や出前講座を行うなど、地域行事への積極的参加を行っている。地域の保育園との交流も盛んである。

2. 評価結果 (詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「地域にグループホームが出来るとそこから愛が生まれる」というスローガンを掲げ、地域とのつながりを大切に、地域の発展に共に協力し、この地域での「当たり前」の生活が営める」を方針として活動している。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	常に理念・方針を全員が体得しており、そのまま日々のケアに生かしている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域での中心的な存在であり、また地域の中の一軒として行事への参加はもちろん、老人クラブから保育園までの連なりを持ち、きわめて活発に地元の人々との交流を行っている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	外部評価は今回で3回目。第三者の目が入ることを新たな見直しの機会と捉え、外部の意見・情報を尊重して自己改善に取り組んでいる。		
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	市の介護福祉課職員、民生委員、町内会、老人クラブの会長らに声かけし、2ヶ月に1回開催している。ホームの運営について詳細に報告・意見交換がなされ、必要なことは実行に移すべく取り組んでいる。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市の介護福祉課等とは密接に連携を取りながら運営を行っている。また現在新規プロジェクト立ち上げのため、頻繁に話し合いを行っている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	面会や家族会での話し合いはもちろん、日常、電話連絡や施設便りなどで報告・連絡を密に行っており、家族からも安心の声があがっている。		
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族等からの意見・苦情は随時受けられるようになっており、スタッフ会議等で周知徹底し、職員全員で共有して改善・徹底を図ることにしている。		
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	近隣に同法人の他施設があり、日常的に顔を合わせている。職員同士が顔見知りとなっているので、異動・離職の補充などに配慮できるようになっている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	月1回の内部研修を行い、育成に努めている。外部の講習・研修会にも計画的に参加するようにしている。新人職員はベテランについて3日間の指導を受ける仕組みもある。		
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他ホームとは、年間4～5回の交流や、年間5～6回の見学会がある。千葉県認知症高齢者グループホーム連絡会での同業者交流も密に行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>新入居者にはあせらずに1週間をかけ、その方を充分よく見て詳細にアセスメントする。情報は全職員で共有し、同様の視点で接するようにしている。</p>		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>職員は、入居者の出来ること・出来ないことを入居時及び毎日の生活の中で把握し、出来ることをお願いしたり、やり方を教わったりするなど、活躍場面を多くするよう努めている。</p>		
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>一人ひとりの思いや意向は、日ごろの生活の中で観察し結果をアセスメントシートにまとめ、ご家族や職員と共有して本人本意の暮らし方ができるよう支援している。</p>		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>家族、職員、ケアマネ、主治医、看護師などそれぞれの角度から意見やアイデアを取り入れて介護計画を作成している。</p>		
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>症状が進行するので1~2ヶ月で見直ししている。チェックシートで細かな変化を見落とさず、家族にも説明し、職員とは月1の会議で共有し、新たな計画を作成している。</p>		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	認知症グループホームの他、デイサービスや障害者ホームを併設で持ち、入居者本人や家族の急な要望にも対応できるよう職員やネットワークを広げている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医や協力医との連携は良く出来ていて、延命処置に関する申し合わせや、日ごろの健康管理、ターミナルに至る話し合いなどが広く適切に受けられるように支援している。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	看護師を職員として配置し、早い段階で主治医、家族、入居者本人などと協議の上、あらかじめ申し合わせた事項の確認を行い、契約に基づいた取組を行っている。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個人情報の管理については、鍵のかかる事務所や本棚に保管し、契約書など重要な書類は特別の保管をしている。言葉かけについては、認知症の特徴を良く理解し、一人ひとりに合わせた言葉かけを行っている。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ホームの運営方針にあるごとく、入居者一人ひとりが主体的に身体機能の低下に合わせた「当たり前」の生活が営めるよう天気やその日の表情から一日の過ごし方を決めて入居者の思いや気持ちを最優先にした支援を行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	和食中心だが魚より肉、パンや麺類よりもご飯が皆さんお好きで、盛り付けや味見、米とぎや食器洗いに入居者も参加されて食事を楽しんでいる。介助の必要な方には職員が寄り添い刻みやとろみをつけるなど機能や力量に配慮している。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	全介助の入居者は昼間、職員の人数が厚いときに一対一で入浴していただくが、その他の方は午前だったり、午後だったり入居者の気分を優先している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	訪問客にお茶を出す、食べ終わった後の片づけを自分の仕事として買って出る、歌や踊りを教えてくださるなど得意分野を把握して、出番があるように支援をしている。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	前の庭は広く、園芸、水まき、洗濯物干し、縁側での日向ぼっこやお茶会などが楽しめる。併設の施設を訪問したり日常的な買い物に参加するほか、地域の行事に参加して積極的に外出の機会を作っている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	どの部屋にも鍵はない。玄関は夜間だけ防犯のため施錠されている。		
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	避難訓練は入居者も参加して三ヶ月に一度、併設の施設との合同訓練は消防署の指導を得て実施している。管理者は近くに住んでいて、煙感知器、誘導等、消火器の使い方、指揮命令系統など日常的に行って、地域住民への働きかけも日ごろの生活の延長でできている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食べる量や水分は一目で分かるチェック表で管理し一人ひとりの力量や習慣と一緒に食事することにより十分把握してそれなりの支援をしている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	太い梁や柱、板張りの広い廊下、雪見障子や床の間など昔の木造建築そのもので、リビングダイニング、トイレや風呂などがうまく配置され、話し声や台所のおいしそうな匂い、訪れる人達の出入りを目にすることができ、やわらかく落ち着いたぬくもりが感じられる。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	大切な写真や賞状、使い慣れた家具や調度品、衣類など馴染みの品が持ち込まれ、安心して過ごせる様工夫されている。職員の声かけで居室の掃除に加わる方もいる。		